

歴史的資料の情報解析研究

八重樫純樹

A Study on Information Analysis of
Historical Materials

YARGASI Junki

[ABSTRACT]

In the recent year, activity of organizing on academical information resources have been actively developing in the many historical branches in japan. But, the historical materials have been exessively variated and many of them have been exited as partial and probable. Information characters of them are nondeterministical and nonstructural. Designs and Creations of data from these materials are very troublesomes.

So, for forming and adjusting these problems to develop the database and data from these historical materials, we have been experimenting the methodology of analysis and organization of information, taking as some examples of historical materials.

This paper describes as followings.

- Purpose of this paper and problem poit of data base of historical materials.
- Some exampls of material and information characteristics of these data
- Analytical concept and some experimenting methodology
- Discussion and conclusion of this paper

1. はじめに

人文科学における情報処理の研究、事業等は民族学博物館における本格的な活動を契機に関連分野の研究機関、大学、事業所等で本格化し、すでに10年以上を経ている。この間、様々な活動の変遷はあったが、情報処理システム一般の進展はめざましく、急激に社会に普及した。この事は歴史的史資料に関わる諸分野も同様であり、これら分野における学術史資料の情報化の研究・事業活動はさらに活発化し、これら分野の大学、大学院教育においても正規課目となりつつある状況である。ここ数年の動向は極めて急速である。

これら歴史的史資料に関する情報化の基本は、歴史的史資料の情報記録であり、これらのデータ形成である。しかし、具体的なデータベース構築、各種情報処理論等、情報化の初期時点から各種問題が発生、論議されてきており、いまだその連続線にあるものと認識する。つまり、上記人文科学における情報化の状況の中にあっても、この基本問題はフォーマルに解決されたとはいえない。

本論はこの歴史的史資料の情報記録とデータ形成の基本問題の糸口を模索するため、いくつかの分野の諸例をもとに行ってきた。これらの試行研究に関し、諸問題といくつかの方向性について示すものである。なお、本論における例は研究経緯における一つ例である。

2. いくつかのデータ資料例

本研究において行った、具体的資料データ例について示す。これらは本研究における例の一つであり、本論ではこの例、特に初期情報解析時点の問題に集約し、論考を進める。

(1) 土偶データの例（考古資料）－（Fig. 1：もの資料）

まとまった集積資料集、一貫した記録方式がなく、各種種考古学調査報告書、論文、図録、専門家との討議を通して、初期解析からデータ集積活動すべてを行ってきたものである。主たるデータ原資料は記録不統一な遺跡発掘調査報告書。

(2) 日本荘園データの例（歴史資料）－（Fig. 2：文献資料）

すでに情報集積、整理された刊本の『荘園志料』（清水正健：角川書店、1967年）情報をもとに開始したものである。その後諸展開活動が行われた。

(3) 姥棄山伝承データの例（民俗資料）－（Fig. 3：伝承資料）

研究者によりすでに調査・整理された調査研究報告書内容をもとにした例（大島建彦「姥棄山と行人塚」信濃、34号、1巻、1982年より）。

遺跡名	所在地	時期						土偶を伴う土器型式	土偶型式	土偶形式		
		縄文時代					弥生時代			中空	中実	板状
		早期	前期	中期	後期	晩期						
崎山弁天遺跡 立石遺跡	上閉伊郡大船町 稗貫郡大迫町						○ ○ ○	加曾利B式 加曾利B式 大洞式	ハート形土偶 ボーズ形土偶 遮光器土偶	○ ○ ○		

Fig. 1 土偶データの例

尾張國 莊園志料

然候、恐恐謹言、六月十二日、政房、遠藤丹後守殿、

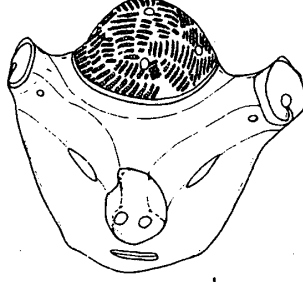
佐手原御厨 **天神宮御願**なり、今郡中上門真荘内に
佐千原村存す、

神鳳鈔曰、尾張國佐手原御厨、
田代喬島楊津御厨 **天神宮御願**なり、今美濃國に隸
 して**田代村**柳津村等あり、

神鳳鈔曰、田代喬島楊津御厨、宮内
 曰、柳津、三百 ○**神願**記一本曰、楊津、不成、往
 爾（7）
平泉莊 郡中江森、**西街道**、**河端**三村を云ふ、

丹羽郡 **丹羽郡**

丹波莊 天平勝寶四年勅施入の**東大寺願**なり、長徳
 四年注文に、尾張國莊田、丹羽郡百八十町八段と
 見ゆるもの、或は是なり、後には停廢せられたる
 が如し、



1

Fig. 2 荘園志料データの例

野	伝	承	記	持	積	の	身	所	地	形	採	集	年	輪	註	記	考
5 4 3 2 1	岩手県遠野市皆生	「」	「」	「」	「」	「」	「」	「」	「」	「」	「」	「」	090908	61	○		○

Fig. 3 姥棄山伝承データの例

3. 資料情報の解析とその特性

(1) 資料情報生成の前提

これら史資料情報は一般に過去からの資料と知識の累積性と密度をもって意味を有する。知識は記録として残るが、内容、形式ともに多様である。Fig. 1~3はそれぞれ対象を解析する過程で用いた一部データである。この周辺に、過去に各人により認識された情報結果の各種関連する精粗、かつ多様な形式を有する文献等群が存在する。

また、現存する資料は過去の一部断片であり、今後いずれ資料としても累積し、研究進展により単一対象研究から複合対象資料との関連情報が要求されてくる。資料情報解析の基本前提はこの視野範囲と、現状可能な情報深度・拡張のレベルを決定する課題である。

さらに情報形成素材史資料はまた対象により極めて多様性であるが、基本的に以下からなる。①未記録未集成資料、②未集成調査記録資料、③集成未整理記録資料、④集成刊本⑤その他、必要な労力は一般にこの順にある。Fig. 1は①、②の混在、Fig. 2は④をベースに、Fig. 3は④そのものである。

(2) 例をもとにした情報解析

情報解析は上記(1)で示したように、Fig. 1~3以外の多くの資料と専門家とのグループワークで実験的に進めたものである。ここではすべてを示す事ができないが、Fig. 1、2における結果としてのデータ論理構造をFig. 3、4に示す。

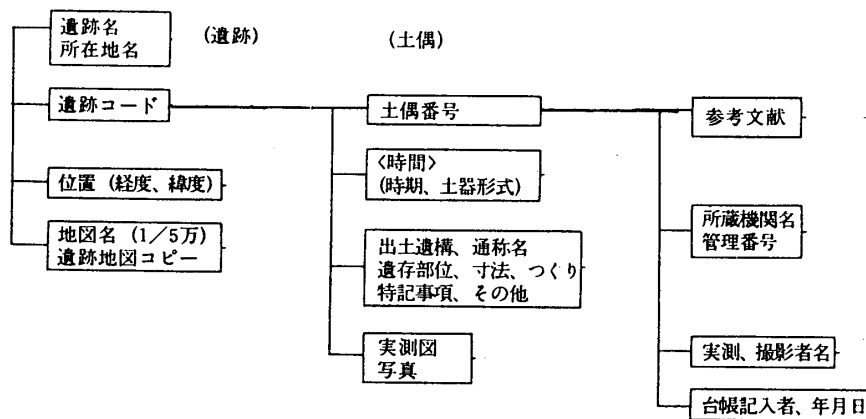


Fig. 4 土偶データの論理構造

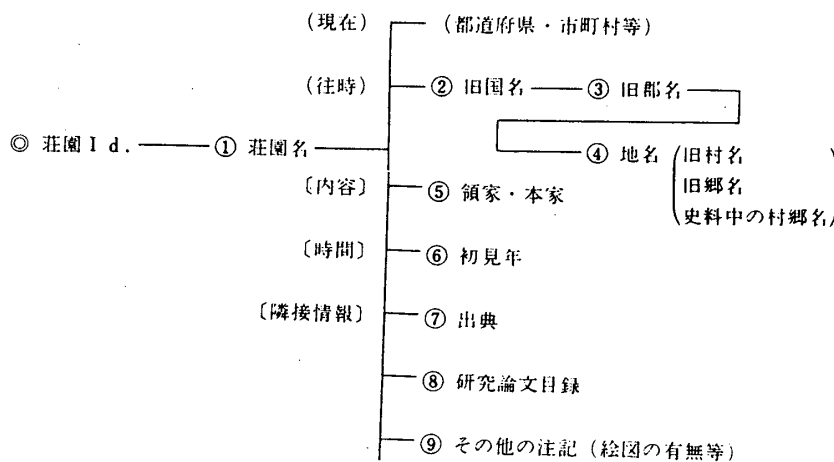


Fig. 5 荘園志料データの論理構造

(3) データと基本情報性質の整理

(1) の基本的な前提と諸問題は常に周辺に存在するが、例をもとに以下整理する。

〔性質1〕 史資料すべてはヒトの五感で認識可能な、何等かのカタチを有する。

〔性質2〕 そのカタチは属性分解可能な部分と不能な部分からなり、構造と値を有する。

Fig. 5から直感的に解るように、情報制御システムとしては、オブジェクト指向の事実型データベースシステムあるいはマルチメディアシステムが適切である。

属性分解可能	属性分解不能
--------	--------

歴史的史資料は物理的にも出現から多重的な時間、空間経緯により現在にいたっており、

(索引) (テキスト)

また、Fig. 1~3と(1)の結果から論理的にも時間と地理的空間属性を常に有していることが解る。したがって、一般化すると、

Fig. 5 史資料データ

〔性質3〕 史資料そのものは時間と地理的空間に関する意味の論理情報空間に存在する。

〔性質1~3〕 および(1)の問題を整理すると次の性質が導かれる。

〔性質4〕 史資料の具体的意味は対象の内容であり、これに関連する文献、管理等の隣接情報からなり、集約すると以下の4項の意味カテゴリーから成る。

<史資料情報> = <時間情報> <地理的空間情報> <内容情報> <隣接情報>

4. まとめ

資料情報化の基本的な作業はその認識、知識情報の共通項を抽出してゆくことである。本論は極めて多様な種類の資料素材、分野、専門知識視点からなる歴史的史資料に関し、これらの共通項と周辺情報模索に終始し、常にボトムアップ的試行の連続であった。特にFig. 1の例は情報集積されていない”もの”資料でもあり、仕様と要求が常に変わり、基礎解析から決定までに5年の時間を要した。

これらの経緯から、研究の状況、情報の背景空間、周辺の文献、関連資料との関係情報抽出等、これら史資料情報の全体枠組みの把握せざるをえず、その目的で進めてきたものである。これらはまだ巨視的すぎるかもしれないが、上記〔性質4〕の観点で情報解析することにより、多くの対象問題が比較的すみやかに整理されてくる。とくに資料間の関連情報としては〔性質3〕に一貫性を有することで、解決することが多い。今後、本性質から解析モデルを詳細化し(場合によっては史資料情報性質により分化方法を試みる)、具体的資料情報解析、また情報記録のツールとしての検討・開発を進める。

本論では構造を中心とし、値には深く触れなかったが、これらの分野においてテクニカルタムの問題が極めて大きい。また、情報化といえども情報の記録とその集積、整理がなければ進みようがない。これらもまた別な大きな基本的課題である。

最後に本研究は多くの研究者の御協力を得て進めているものであり、深く感謝いたします。

〔参考文献〕

- (1) 八重樫純樹編：『国立歴史民俗博物館研究報告』,第30集,1991
- (2) 八重樫純樹編：『国立歴史民俗博物館研究報告—土偶とその情報—』,第37集,1992
- (3) 八重樫純樹編：『国立歴史民俗博物館研究報告』,第53集,1993

国立歴史民俗博物館、助教授

National Museum of Japanese History, Assistant Prof.